

総務常任委員会

(令和3年1月29日)

○ 荻須智之委員長

こんにちは。お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、先日行いましたオンラインによる視察内容も踏まえ、昨年から取り組んでまいりました中長期のテーマのまとめをしていきたいと思っております。

所管事務調査1、人口問題・シティプロモーションについての中長期テーマなんですが、オンライン視察の振り返りとしましては、会議用システムにオンライン視察の際の意見交換内容をまとめてアップロードさせていただいております。

メールでお知らせしたとおりなんですが、それらも参考としながら人口問題と絡めたご意見等をいただければと思います。

ご意見のある方は挙手にてご発言ください。いかがでしょうか。

(発言する者あり)

○ 荻須智之委員長

傍聴の方、分からへんね。

傍聴の方はこのドキュメントはお読みになっていませんので、一度読ませていただきます。ペーパー2枚にわたりますが、皆様はお読みになってきていただいていると思いますので、その間に質疑もお考えいただければと思います。

町田市オンライン視察に係る委員からの主な質疑で、新公会計制度につきまして、新公会計制度導入による職員及び議員の意識変化はどうであったかという問いに対し、行政評価シートを活用して決算審査を行うようになったため、決算審査における質問内容が経費から事業内容へと変化していった。それに伴い、職員もそれぞれの事業の取組内容をより意識するようになった。予算編成においても事業の中身、成果を中心に考えるようになったと感じているということでした。

続きまして、行政評価シートは施設利用料の設定に活用されることはあるのか。特に福祉的な役割を持つ施設については、利用料についても特段の配慮が必要であると考えているかどうかという問いに対し、事業によっては、基本情報として過去3年分の受益者負担率を記載している。福祉的事業については負担割合が決まっており、受益者負担を考えること

は少ない。例えば高齢者福祉センターは無料で利用できるため、行政評価シートには受益者負担比率は記載されていないが、経費や利用者数等を掲載して見える化しているとの答えでした。

新公会計制度導入に当たっては、一気に切り替えたのか。導入に当たって、各所属において混乱はなかったかとの問いに対し、導入当時は別の部署に所属していたが、気がついたら導入されていたという印象であり、特に混乱はなかった。これは説明をしていただいた職員の感想でございます。

各部局が迷わないようにするという理念の下、当時の財政課が努力した結果であると考えたとの答えでした。

新公会計制度に関する職員の負担はどうかという問いに対し、導入当初は市役所全体で職員に負担がかかったが、続けるうちに慣れてきたこともあり、今ではあまり負担はない。今年度は新型コロナウイルスの関係で例年開催している各所属への説明会を中止したが、大きな混乱もなく制度を運用できている。始まって10年目ということで初期と今とでは状況が違うという答えでした。

新公会計制度導入によるコスト削減計画はどうであったか。また、地方公共団体はコストとは関係なく自治体の責務として取り組まなければならない事業もあるが、コストを意識し過ぎてそういった事業が疎かになるのではないかという懸念もあるがどうかという問いに対し、コスト削減については毎年項目を変えて取り組んでいるため、削減量をはっきりと示すことはできないが、例えば、行政評価シートによって委託と直営によるコストを明確に比較することができ、コスト削減につながったという事例がある。市民へのサービス提供を第一に考え、費用対効果を意識するようになっているとの答えでした。

議員からコスト削減を厳しく指摘されることはあるかとの問いに対し、決算審議の場では事業の成果について質疑されることが多く、職員もしっかりと取り組んでいるとの答えでした。

これまでの取組の中で課題はあったかとの問いに対し、全体のサービスの提供量が分かってきたが、新型コロナウイルスの影響もあり、予算の使い道についても在り方が大きく変わってきている。そういった中でも市民への説明責任や各事業をより良いものにしていくために、今後も取り組んでいきたいと考えている。長年取組を続けてきたので、新たな改善点が見つかりにくくなっているという課題はあるとの答えでした。

続きまして、新公会計制度導入に向けた資産評価に当たっては、減価償却の考えを取り

入れることになるのかとの問いに対し、資産の把握に苦勞した。特に道路については規模が大きく、道路延長や地価を考慮して資産を把握し、対応年数で割ることで減価償却を算出したとの答えでした。

行政評価シートの目標値や達成時期については、設定が難しい事業もあると思われるが、どのように設定しているのか、との問いに対し、町田市5か年計画やマスタープラン等に記載されている目標と統一しており、行政評価シートのために新たな目標設定をしているわけではないとの答えでした。

外郭団体等にも新公会計制度が浸透しているのかとの問いに対し、第3セクター等の行政評価シートは作成していないが、町田市に限らず各自治体で統一的な財務諸表を作成しており、その中には一般会計や特別会計とともに第3セクター等の財務諸表も混ぜた連結財務諸表を作成しているため、それをもって把握することはできる。しかし、総務省基準の財務諸表には事業の成果がないため、費用対効果や有効性が十分に把握できないという課題はあるとの答えでした。

以上が主な質疑と答弁の内容でございます。

ご意見のある方は挙手にてご発言願います。いかがでしょうか。

これでよろしいかということなんでございますが。

(なし)

## ○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、これ、何気なく終わりましたので、さらっと。

誰も努力していなかったのかと申しますと、実は議会事務局のほうで多大な努力を払っていただきまして、四日市市政史上初のオンライン視察ということを成功裏に収めることができました。その苦勞話をちょっと事務局職員から披露していただきたいんですが、いかがでしょうか。

## ○ 小林議会事務局主事

すみません、ご指名いただきましたので、僭越ながら。すみません。

ただ、オンライン視察を行うに当たっての事務局としての感想ということなんですけれ

ども、やってみたら意外とできたなというのが率直な感想でした。

ユーチューブの配信のためにカメラの設備とか、音響の設備が整っていましたので、設備面で特に苦勞することはなくて、会議用の今回はWebexですけれども、そちらのアプリをパソコンにインストールしたところ意外とすんなりにつながったという感じでした。

今回はタブレット端末も発言者の席の前に回して、顔が映るように工夫させていただきましたけれども、そういった配慮が本当に必要だったのかとか、ちょっと無駄なところはそぎながらよりよい形に今後ブラッシュアップしていければいいのかなと思います。

今回苦勞した点ですけれども、やはりオンライン視察を受けていただく相手方の選定が一番苦勞した点かなと思います。

問い合わせた自治体からはちょっと対応できないであるとか、ちょっと検討が必要といった返答が多くて、まだまだ自治体の中ではウェブ会議等が浸透していないのかなと感じたところです。

一方で、オンライン視察は通常の行政視察とは違っていて、やはり行程に縛られずに視察先を選定できるというところは長所だと思います。

オンライン視察ということで現地の空気感みたいなものは感じるできないというそういった性質はありますけれども、今後こういったオンライン視察が全国的に広がってくれば、そういった特徴も生かしながら有意義な視察とか、意見交換ができるのかなと感じたというのが所感でございます。

## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

ということで、町田市を選定させていただいた最大のポイントは、町田市は受け入れていただくことができた。それとWebexなるその会議システムのホストを既に導入してみえていたということで、この辺りからもしてやっぱり先進性が感じられます。

ということで公会計の改革とICTの改革という点で、先を行ってみえているのかなということで視察先としてふさわしいと思いましたんですが、結果うまく運んでいただくことができて、このソフトを導入されていたということが一番大きかったかなというところですよ、でございました。

今後は視察は行かなくていいのかというふうなことにもなりかねないんですが、やはり足を運んで現地で確認をする事項とか、現物を実際見せていただかないと分からないとい

うことも多々あろうかとございます。

施策によっては抽象的なものであればこういうオンラインでの視察でも可能なんですが、こういう今後できることというのに対して、一つの新しい試みとしてうまく終えることができたかなとは思っております。

その辺りも少し報告書に書き添えさせていただこうかとは思っております。

その内容を他の3常任委員会とも共有して、こういうウェブを使ったオンライン視察とも呼んでいますが、オンラインのセミナーも経験しましたが、今後どんどん取り入れていくべきかなとは考えております。そういう点に関しても何かご意見がありましたら。

I C Tについては次の項目として取り扱わせていただくんですが、いかがでしょうか。

#### ○ 樋口博己委員

今回は町田市に視察をお願いしたんですけど。これ、今まで四日市にオンラインの視察の依頼があったのかどうなのか。

今後、逆に今回オンライン視察をさせていただいて、今後受入れ、例えばホームページ等でもオンライン受入れ可能よというような意思を表示されるのか、その辺はどうなんでしょうか、今回の経験した上で。

#### ○ 小林議会事務局主事

一応四日市市議会のほうでは今実際に来ていただく視察はたしか止めていたと思うんですけども、オンラインでの視察は受け入れますということで、ホームページ上でもご案内をさせていただいております。

オンラインの視察の受入れは結構、数か月前からご案内はしているんですけども、実際にちょっと受入れまで至った例はなくて、実際はちょっとなかなかお問合せもないというのが現状です。

#### ○ 萩須智之委員長

コロナもあってということもあると思うんですが。

#### ○ 森川 慎委員

ホームページのどこに出ているんですか。

もっと大々的にトップページに出るぐらい、バナーを書くぐらいせんとやっぱり申込みというのはないのかなと見ていて思いましたので、参考にしていただければ。

○ 荻須智之委員長

目立たないということですね。

○ 森川 慎委員

分らないです。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

荻須委員長言われるように視察の内容によって現場や現物を見なければ分らないとか、そういう内容でなければ、先日の内容のようなことであれば十分オンラインで間に合うので、今後そういったことも考えながら視察全般については経費削減になるので、オンライン、リモートの会議を活用していくべきだなと改めて思いました。

以上。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。ご意見ということで。

ほか、いかがでしょうか。

よろしいですか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

それでは、続きまして、項目として仕切ってはないんですが、ICT化に向けた取組についての質疑の内容を朗読させていただきます。

バックアップについての対策はどうかという問いに対し、庁内システム基盤と庁外のデータセンター、さらにクラウドを利用しており、いずれも定期的にバックアップを行っている。また、庁内のバックアップを庁外のデータセンターで、逆に庁外のバックアップシステムを庁内のシステム基盤で行うことで、リスクを分散しているとの答えでした。

オンライン手続に不安のある方への対応についてはどうかとの問いに対し、申請支援システムについては転出届をOCRで電子化処理することで転入に付随する手続を同時に行い、利用者の負担を軽減できる。OCRは手書きの文字を電子化でワード等に変換するというソフトでございます。情報が不足する部分については職員によるヒアリングで補完し、最終的には利用者本人の確認をしていただき、電子署名を発行することを検討しているとの答えでした。

町田市が取組は国のモデル事業に指定されているといった特色はあるのかとの問いに対し、それぞれの取組はそれほどでもないが、ICT化のベースとなった自治体間ベンチマーキングは先進事例として挙げられることも多い。また、クラウド利用は先進的に取り組んでおり、そういった背景が今日のICT化の取組に繋がっている。クラウドは先ほども出しましたが、データベースをセンター化して別のところ、たまには国外であったりするんですが、そういうところと結んで、そのデータベースをこちらで利用するだけというような利用形態でございます。つながっているとの答えでありました。ICT化の取組につながっているということでございます。

マイナンバーカードの活用についてはどうかとの問いに対し、資料に具体的記載はないが、電子申請や申請支援システムにも関わるツールであり、マイナンバーカードの普及は必要であるとの答えです。

マイナンバーカードの普及に向けた取組を伺いたいとの問いに対し、町田市のマイナンバーカードの普及率は27%程度であり、市民センターでの交付やイベント等の場を活用した取組を実施しているとの答えでした。

5G対応についての考えはどうかとの問いに対し、現時点では特に考えを持っていないが、通信基盤が整備されていくことを見越してアプリやサービスの研究をしていくとの答えでした。

以上がICT化に向けた取組についての主な質疑と答弁でございます。

このまとめについてもご意見を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。



(なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

そうしましたら、こういう形で報告を作成させていただきます。

続きまして、中長期テーマのまとめについてでございます。

本テーマのまとめについて、会議用システムに簡単な骨子のようなものをアップロードさせていただきます。

この資料について、事務局から説明をしていただきます。お願いします。

○ 小林議会事務局主事

まず、資料をご確認いただきたいと思いますが、08休会中12月から2月の中の04総務常任委員会、その中の102報告書骨子案という資料をご覧くださいというふうになります。

○ 荻須智之委員長

よろしいでしょうか。

お願いします。

○ 小林議会事務局主事

こちらが今後使っていくこの中長期のテーマの報告書の本当に要素だけを書かせていただいているようなものになるんですけども、まず、一般的な報告書と同様に、はじめから始まりまして、2番目の項目で調査日程及び調査事項を記載させていただこうと思っています。

これまでの取組として休会中の所管事務調査を中心に書いていきますが、(3)のところで、このテーマに沿って行政視察も昨年度行っていただいておりますので、休会中の所管事務調査とは違いますが、行政視察もここに書かせていただこうと思っています。

それから、(4)のところ、今年度実施したスマート自治体の実現についての休会中の所管事務調査でございます。

こちらの休会中の所管事務調査はもともと中長期のテーマとは関係ない形で行われましたが、先日行われました町田市とのオンライン視察でもICT化の取組について、人口問題と絡めて視察を行っていただきましたので、こちらについても記載させていただけたらどうかということを書かせていただきました。

3番のところで調査内容を書かせていただいた後、まとめの要素的なものですが、昨年度中心に行っていただきました定住人口、交流人口獲得に向けた取組についてまとめを書かせていただいて、その次、今年度のテーマ、人口減少社会における施策の在り方、行政運営についてのまとめを書きます。

最後のまとめの方向性についてなんですが、先日の委員会でもご意見いただきましたように提言、深くまでなかったので来年度の委員会の方向性を縛るところまでの強い申し送りという感じでもないのかなというようなご意見をいただきましたので書かせていただきましたように本テーマについては掘り下げが不十分であり、具体的提言には至らなかったが、人口は自治体における最も基本的な構成要素の一つであり、引き続き調査が必要である。

次年度以降の総務常任委員会においても対応可能な範囲で継続的に調査することを求めるというような意味合いのまとめを最後させていただいたらどうかということがございます。

事務局からの説明は以上でございます。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

こういう形で進めたいということを示していただいたんですが、ご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

#### ○ 森川 慎委員

去年とか、タウンミーティングなんかでもこれに絡めて何回かやったと思うので、それも足しておいてもらおうとよりいいのかなと思いました。

#### ○ 萩須智之委員長

ご意見とか、そういうのに対する市側の説明とかも含めてということ……。

○ 森川 慎委員

そういうまとめができるのであればそれでいいし、こういうこともしたということの報告だけでもいいかなと思いますけれども。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

その方向で検討させていただきます。いいですか。

ということで、ほかの委員の方もこの件に関してよろしいですか。このタウンミーティングも加味してということで。

○ 笹岡秀太郎委員

まとめの部分の3ポツのところ、本テーマについて掘り下げが不十分でありという表現より、例えば視点が多様化しているとか、不十分というところとちょっと、足らなんだというイメージなんやけど、ちょっとその辺の表現だけ変えたらどうかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

誠にベテランらしいご意見でありがとうございます。

この書き方によっては、国会なんかやったら大変なことになってしまうようなことも考えられます。ということで表現の仕方を軟らかくしたらというふうにご助言いただいたというふうに解釈します。よろしいですね。

まずは骨子案でございますので、ご助言の方向で変えさせていただきます。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

今の笹岡委員の話は私も前回似たようなことを言いましたけど、それはコロナで回数もそれから、調査活動が制限されたので深掘りに支障があったと、そういう意味で発言した

ので、そういう方向で不十分ということの説明をいただければと思います。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

確かにちょうどこの1年間、コロナ禍によりまして、議員活動も政務の活動も本当に制約を受けております。これも確かに影響しておりますので、一言加えさせていただきます。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

○ 森川 慎委員

まとめの一番最後のところで、求めると書いてあるんですが、結構強いかなと思うんですけど。

何か調査を期待するとか、こんなふうにもうちょっと軟らかいほうがいいかなと思うんですが。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

これも表現的なことですね。

例えばどうでしょうね。

○ 笹岡秀太郎委員

継続的な調査が望まれるとか、そんなようなところ。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

継続的な、こういうのはやはり慣れが必要かなというので、ありがとうございます。

継続的調査ですね。

○ 樋口博己委員

先ほど豊田政典委員がコロナの関係で思うように調査が進まなかったというようなこと

ろで説明いただくとお思いますので、その上で最後にオンラインの行政視察を試みたということで、今後に期待するというような、こういった調査も期待するみたいな、そんなところも含めていただくと。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

まさにおっしゃるとおりで、コロナ禍に付随した形でこのオンライン視察が始まりました。

今できるのに予定していなかったんだなということも気づきのうちの一つだと思うんです。ですから、このコロナ禍によってICTの進歩というのはすごく加速されたようにも思いますので、今のご意見も入れさせていただきます。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

何はともあれオンラインで過不足なく音声も明瞭で、画像もあれで十分かと思います。それとデータのやり取りも以前から十分にPDF等でできますので、豊田委員にも賛同いただきましたが、大きい意味で経費削減にもなります。

ということで、今後はオンラインでできるものはどんどんやって、ですから回数も増やすこともできると思うんですね。受入れ先がどうかということは問題として残りますが、森川委員のおっしゃられる、樋口委員もご心配されたように当市も受け入れられるということのアピールして、お互いさまであるので、そういう形で地方自治体間でそれぞれがICT、オンライン等の技術を高め合うということができればいいかなというふうに感じました。

そういう形で報告書の作成を進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、一応議員間討議という形を予定しておりましたが、ご意見が出尽くしたようですのでこれにて本日の予定は終了させていただきます。

○ 樋口博己委員

すみません。ちょっとここで分かるかどうかあれなんですけど。

今年度当初で持続化給付金、10万円の件で新型コロナウイルス感染症対策室でしたっけ、あれが立ち上がって、これは、運営をいうと政策推進部だったと思うんですけど、今回その対策室でワクチンを扱うということになるんですけど、やっぱり政策推進部で、この総務常任委員会での所管の事項になるのかどうなのか、ここで聞いてどうなるか分からんですけど。

(発言する者あり)

○ 萩須智之委員長

必要でしたらその点についても所管事務調査という手もあろうかとは思いますが、そこまでは必要ないですか。

○ 樋口博己委員

整理だけちょっとしてもらえたら。

○ 萩須智之委員長

どうでしょう、理事者に問うて回答があったらメール配信か、もう一回集まっていたか。

○ 笹岡秀太郎委員

こういう提案があったのを委員長のほうから正副議長に届けていただいて、整理してもらったら。

○ 萩須智之委員長

分かりました。つまびらかにしていただくということですね。

もう時間もありませんし、国のほうも従来の所管とは別個に河野大臣が兼務という形になりましたけれども、特別な役職を置いたというぐらい事務量も増えるんだとは思いますが。

実際の冷凍庫のデリバリーからいろいろあると思うんですが、その辺、確認させていただいて、どうしましょうね、報告させていただくタイミングというのは。

○ 小林議会事務局主事

何もなければ議案聴取会がじきに開かれ……。

○ 萩須智之委員長

委員会別の。

○ 小林議会事務局主事

委員会別も多分2月定例会議なのであると思うんですが、そこだと遅ければ、いずれにせよ調べさせてはいただいて。

○ 萩須智之委員長

ちょっと遅いのではあかんし。

○ 樋口博己委員

今事務局が言われましたけど、議案聴取会で全議員の中で明らかにしていただいたほうが2月定例会議の審査もスムーズじゃないかなと思うんですが。

○ 萩須智之委員長

というご意見やと思いますが、可能な、今回の内容にもよる。

○ 笹岡秀太郎委員

ここで答えは出せへんで、もう一度言ったように、しかるべきところできちんと今のこういう意見がありましたという報告でええんと違うの。

ここから先、なかなかスケジュール案出てきやへん、ここで決めてもしようがない。

○ 荻須智之委員長

それ以上立ち入れませんので、じゃ、調べさせていただいてご報告ということだけにさせていただきますか。

その上でもし必要であれば議題として取り上げるか、所管事務調査を行うかということになるかと思いますが、取りあえず正副で預からさせていただきます。

タイムリーないいご意見やと思いますので、ありがとうございます。

では、本日本日予定していた事項は以上となりますが、よろしかったでしょうか、皆様。

(なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

じゃ、ご協力に感謝します。お疲れ様でした。ありがとうございます。

14 : 00 閉議